

キックオフイベント オンラインセッション開催報告

イベント名: 共催シンポジウム “Easing the path towards open science for researchers”

共催: シュプリングー・ネイチャー

開催日時 7月23日 17:00 ~ 19:00

登壇者など

演者

- Nick Campbell (Vice President, Academic Affairs, Springer Nature)
- Maria Hodges (Executive Editor, BMC Journals)
- Ed Gerstner (Director, Research Environment Alliances, Springer Nature)

パネリスト

- 宮川剛先生(藤田医科大学教授・JAAS理事)
- 白井知子先生(国立環境研究所 室長)
- 田中智之先生(京都薬科大学教授、JAAS理事)

参加人数: 117人

報告内容(自由に記述してください)

当共催シンポジウムでは、シュプリングー・ネイチャーの活動を紹介し、オープンサイエンスの推進を可能にするものと障壁について、また研究者がオープンサイエンスを実践しやすくするために出版社がどのような貢献ができるかを議論しました。

当共催シンポジウムは“Easing the path towards open science for researchers”というテーマで、オープンサイエンスとその実践に関する情報と課題の共有とディスカッションを目的として開催されました。本シンポジウムは2部に分かれており、第1部ではオープンサイエンスの実践をサポートするシュプリングー・ネイチャーの取り組みの紹介、第2部ではオープンサイエンス推進や容易化を実現するにあたっての要因や障壁に関しパネルディスカッションを行いました。

まず第一部では、以下の3つの講演で、当社活動の紹介と問題提起を行いました。

- Open Scienceの利点、パートナーシップの重要性、そしてOpen Scienceをより実践しやすくするための当社の活動の紹介。(Nick Campbell)
- 当社のオープンサイエンス支援活動を編集部から出版サイクルを使って説明し、当社が出版プロセスを通じてどのように研究者をサポートしているかをご紹介。(Maria Hodges)
- Research Integrityの重要性をテーマに調査結果を紹介。(Ed Gerstner)

講演に続いたパネルディスカッションは宮川剛教授、田中智之教授、白井知子博士にご参加いただき、オープンサイエンスの実現と障壁について意見交換の場となりました。エンゲージメント、インセンティブ、アセスメントなどがオープンサイエンスの推進にどのように影響を与えるかについて触れ、研究者、研究機関、研究助成機関、出版社といった異なるステークホルダー間のコラボレーションや対話がオープンサイエンスの更なる進展に重要であることを全員が確認しました。会場からも多くの質問が寄せられ、終了後のアンケートでは、「なぜオープンサイエンスが必要なのか、どのように推進すべきか、誰が参加すべきか等、多様な視点からの議論がなされ、充実したプログラムでした。」といった意見を頂戴することができました。